

3 乾燥材の利用のすすめ

平成25年全国木材生産状況

樹種 順位	ヒノキ		スギ		アカマツ・クロマツ		その他 (カラマツ・広葉樹等)	合計	
	県名	生産量	県名	生産量	県名	生産量	生産量	県名	生産量
1位	岡山県	222	宮崎県	1,564	岩手県	191		北海道	3,351
2位	熊本県	218	秋田県	980	青森県	76		宮崎県	1,713
3位	高知県	195	大分県	765	長野県	48		岩手県	1,370
4位	愛媛県	184	熊本県	685	福島県	38		秋田県	1,106
5位	大分県	151	青森県	594	島根県	38		熊本県	953
			(23位) 岡山県	139	(15位) 岡山県	9		(15位) 岡山県	391
全国		2,300 (12%)		10,902 (55%)		62.4 (3%)	5,820 (30%)		19,646

(単位:千㎡)

木造住宅に乾燥材を使う意義

樹木は、根から水を吸い上げ、その水を幹と枝を通して葉まで運び、葉において光合成を行い、成長しています。したがって、本来、生きていた樹木には多くの水が含まれています。

しかし、それらを伐採して利用する段階になると、木材中に含まれていた大量の水分は不要となり、木材に含まれている水の量(含水率)が減少する過程で、水分の減少に伴って収縮したり、同時に曲がりや割れ等の欠点が発生することになります。

家を完成させた後に、これらの寸法変化や狂いが生じると、不具合の発生につながる場合があります。一般的に、岡山県内では、外気に曝されるような環境下では、年間で多少の季節変動はあるものの、木材の含水率は15%前後に落ち着きます。

このため、十分に乾燥していない木材で家を建てると、家が完成してから木材の乾燥が進み、木材に収縮や狂いが発生し、ドアが開きにくくなったり、壁に亀裂が入ったりというような不具合が発生する可能性が高くなります。このような不具合は、竣工後、次第に目立つようになり、7年後には様々な種類の不具合が複合的に発生したという調査結果もあります。

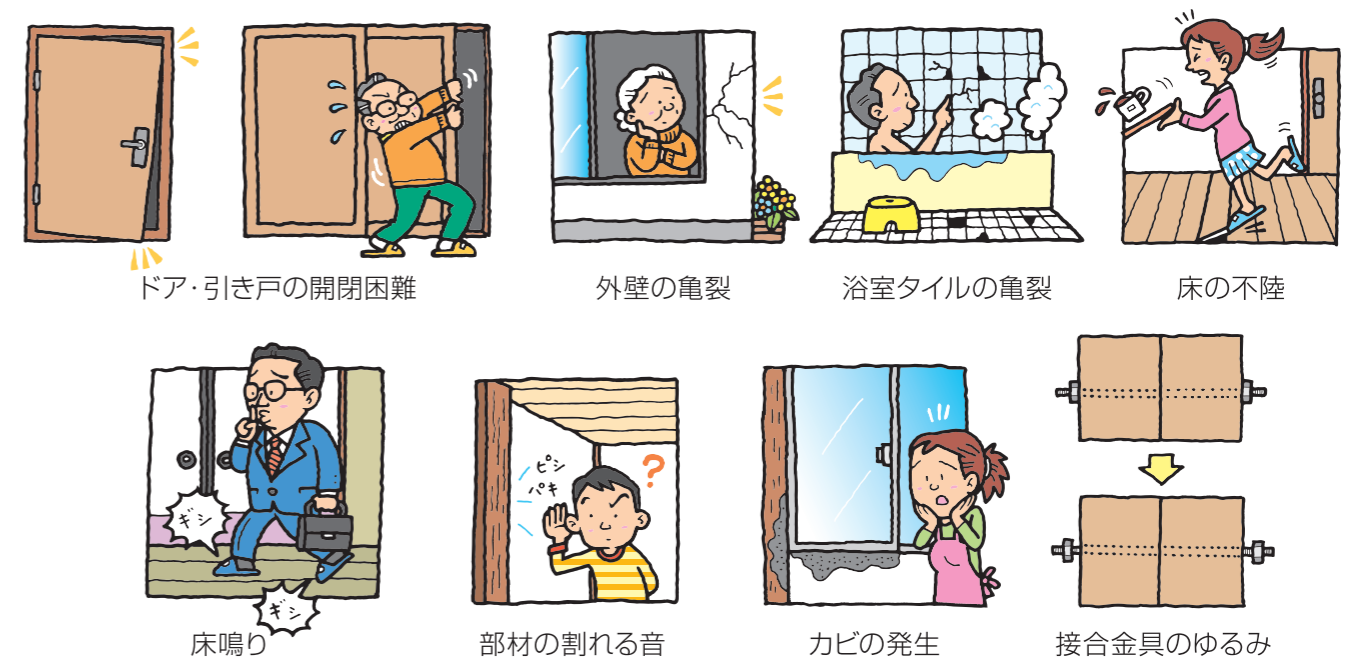
したがって、不具合の発生が無い高品質な木造住宅を提供するためには、的確に乾燥させた木材を使うことが、極めて重要となります。

1 住宅に発生する不具合

発生する様々な不具合の種類

木造住宅に用いる部材は、「あらかじめ乾かしてから使う」のが基本です。建設途中で乾くから未乾燥材を使っても問題はないという考えは、工期の短縮化が求められる現代においては、必ずしも適切な対応とは言えません。

未乾燥材を使用した場合、以下に示すような不具合が生じることがあります。



発生する様々な不具合の種類

資料: 日本住宅・木材技術センター

